

# 2025「競技者必携」審判の部 改訂・修正点

P36

## 5. 審判委員会申し合わせ事項

### 3. 競技場について

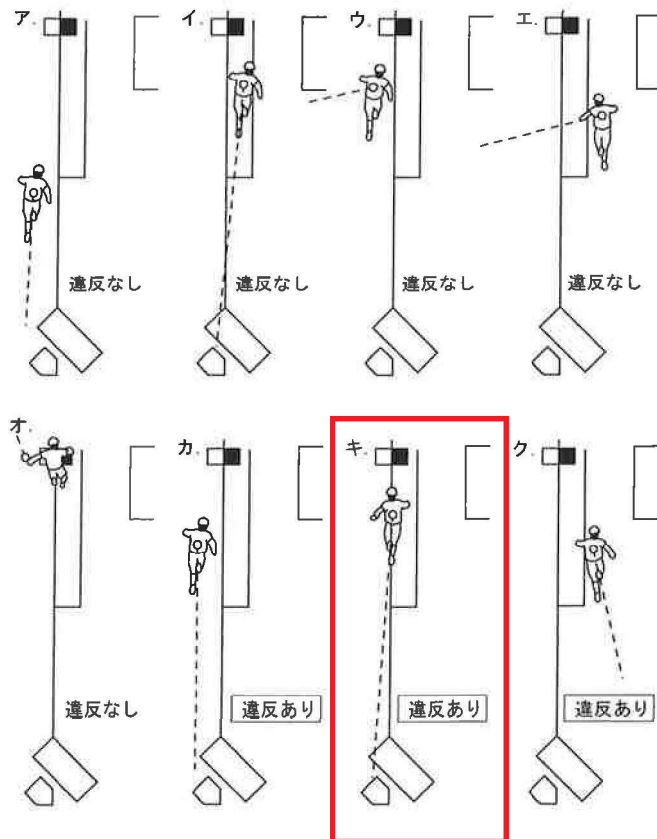
#### (4) スリーフットレーン違反について

※改訂理由(修正理由)

現行(注)を(注1)とし、(注2)を  
新設。

キ.に関する解説を追記した。

#### (4) スリーフットレーン違反について



(注1) ウ・エ・オは、送球の方向と打者走者の走る方向が異なり、妨害行為とはならない。

(注2) キ.はファウルライン上を走っているため、妨害行為となる。

※ライン上はフェア地域に含まれ、スリーフットレーン内ではない。

P38

## 5. 審判委員会申し合わせ事項

### 4. 用具について

#### (5) 使用球

※改訂理由(修正理由)

大会使用球(試合球)については、試合前、チームに貸与しないことになっているが、一部大会・開催地によって対応が異なるケースが散見されるため、対応を明文化し、意思統一を図った。

#### (5) 使用球

審判員は、使用前に手でこすって滑りを止めておくこと。

また、試合前、チームに大会使用球(試合球)を貸与し、練習等に使用させてはならない。

P39

5. 審判員申し合わせ事項  
5. プレイヤーと交代について  
(3)ウ

※改訂理由(修正理由)

(3)ウ の後に脱字(「.」が抜けていた)があり、修正した。

P41

5. 審判委員会申し合わせ事項  
5. プレイヤーと交代について  
(5)テンポラリーランナー

※改訂理由(修正理由)

テンポラリーランナーの交代は出血・負傷の場合のみ行うことができ、その場合は正規の交代となること等を明記し、再確認を促すこととした。

P45

5. 審判委員会申し合わせ事項  
8. 打撃について  
(12)フェンス際の飛球の捕球について  
イ. に補足・追記

※改訂理由(修正理由)

フェンスに衝突しながら捕球した際の説明文を追記することで分かりやすく整理した。

5. プレイヤーと交代について

- (1) 大会要項によるベンチ内の人数の点検確認をする。
- (2) 球審は、試合中、打順表を保持しなければならない。
- (3) 選手交代の通告
  - ア. 球審は、プレイヤーの交代の通告を受けたら、記録員に伝え、放送員が直ちに場内放送を通じて発表しなければならない。相手チームのベンチに告げに行く必要はない。  
なお、放送設備のないときは、本塁付近から記録員、相手チームに分かるように大声で発表すればよい。  
交代の通告は、先に交代して退く選手(O U T)から通告し、その後、交代して新たに入る選手(I N)を通告する。  
(ユニフォームナンバーも含む)
  - イ. 監督がいるにもかかわらず、他のコーチが選手交代を通告しても、これを受理してはならない。
  - ウ. 打順表の最終確認終了後であれば、プレイボール宣告前であっても、その交代は認められる。(この交代はスターティングプレイヤーの変更ではなく、通常の選手交代と同様に扱う。交代した選手が次に出場する場合には「再出場」となる)

(注2) テンポラリーランナーを使用した場合、テンポラリーランナーに代走を使用することはできない。ただし、テンポラリーランナーが出血・負傷したときのみ、正規の交代として選手交代を行うことができる。また、その場合、テンポラリーランナーを起用する前の投手・捕手を再び走者に戻すことはできない。

(注3) (注1)(注2)のような場合、テンポラリーランナーを交代させるには、正しい控え選手と交代させなければならない。

- (12) フェンス際の飛球の捕球について
  - ア. 捕球直後、フェンスに衝突して、そのはずみで落球したときは、捕球とはみなさない。
    - (ア) 球が場内に落ちたときは、ボールインプレイである。
    - (イ) 球が場外に落ちたときは、ホームランである。
  - イ. 場内で捕球した直後にフェンスに衝突し、フェンスが破損したり倒れたりしたために、球を確捕したままフェンス上に転倒したときに、身体の一部でも場外に触れたときは捕球後場外とする。
  - ウ. ネット・フェンスが体圧でふくらんだ変形部分は場内とするが、球を確捕したままネットの上に倒れたときも場内捕球である。  
また、ネット・フェンス上にいるときはボールインプレイであるが、片足でも場外に出たときはボールデッドとなる。

P47

5. 審判委員会申し合わせ事項

10. 審判主任・副審について

※改訂理由(修正理由)

(2)の後に、審判主任の任務を追記し、各球場・試合会場で起こったトラブル等の報告義務を明記・再確認し、(3)とし、以下の項番を繰り下げた。

10. 審判主任・副審について

- (1) (公財)日本ソフトボール協会主催大会では、各球場に審判主任・副審を置く。
- (2) 審判主任は、試合中の審判員のルール適用の誤り、監督の抗議などを直ちに解決するため、担当審判員とともに責任を持つ。
- (3) 審判主任は、その球場で起こったトラブル等、報告が必要と思われる事項を副審判長に、副審判長は審判長に報告しなければならない。
- (4) 副審は、アウトカウント、ボールカウント、得点を常に確認して、もし間違いがあったときは、直ちに球審に連絡する義務がある。
- (5) 副審は、常に両チームの打順表を所持し、打撃の順序、プレイヤーの交代(投手、DP、再出場等)、控え選手に注意しなくてはならない。
- (6) 副審の席は、記録員と十分な連携を保つことのできる位置に設置する。

P79

7. 審判員の基本動作

故意落球

コール・シグナル

※改訂理由(修正理由)

R8-2項<効果>8~15に準ずる形で文章表現を改めた。

故意落球 故意落球、バッターアウト	トラップトボール ノーキャッチ
球審は前に出る。 手またはグラブに触れてから故意に落としたかどうかを見極める。 ・無死または一死のとき ・走者が一塁、一・二塁、一・三塁、満塁のとき(走者が一塁にいるとき) に適用される。	飛球が野手に触れることなく一度地面に触れたかどうかを見極める。
球審は、“ボールデッド”とコールしてから右手で野手を指さして“故意落球”とコールし、続いて打者走者に向かって“バッターアウト”のコールとゼスチュアをする。	“ノーキャッチ”とコールし、セーフのシグナルを出す。

P80

7. 審判員の基本動作

ツーベース

コール・シグナル

※改訂理由(修正理由)

R8-4項<効果>10に準ずる形で文章表現を改めた。

宣言用語	打球と進塁 ツーベース	ホームラン
姿勢と構え	打球が、間接にフェンスを越えたか、または競技場外に出たかを確認する。	打球が、直接フェンスを越えたかどうかを確認する。
コール・シグナル	確認した塁審は、“ボールデッド”とコールし、右手を高く挙げ2本の指を立て“ツーベース”とコールする。 球審もこれに同調する。	確認した塁審は、右手を頭上に伸ばして手を握り、時計回りに水平に円を描く。

<p>P84</p> <p>7. 審判員の基本動作</p> <p>守備妨害(インターフェアランス)</p> <p>コール・シグナル</p> <p>※改訂理由(修正理由)</p> <p>他の項目との整合性を図り、文章を整理し、分かりやすく書き改めた。</p>	<p>宣告用語</p> <p>安全進塁権 ツー・ベース スリー・ベース</p>	<p>守備妨害(インターフェアランス)</p> <p>インターフェア・ランナーアウト</p>
	<p>姿勢と構え</p> <p>送球・投球が、ボールデッドになる場所に入ったかどうかを見る。</p> <p>送球またはフェアの打球にグラブなどを投げて、当てたかどうかを見る。</p>	<p>○本塁付近のプレイ</p> <p>球審は腰を落として見極める。</p> <p>○走者の場合</p> <p>塁審は腰を落とし、両手を大腿の付け根付近に置いてプレイを見極める。</p>
	<p>コール・シグナル</p> <p>ボールデッドのシグナルを示し、“ボールデッド”とコールし、右手を挙げ2本の指で“ツー・ベース”とコールする。(投球の場合はワン・ベース)</p> <p>球に当たったことを指さしたのち、“ディレドデッドボール”のコールとゼスチュアをする。</p>	<p>球審は、両手を高く挙げ(タイムのシグナル)、“ボールデッド”とコールし、打者または走者を右手で指さして“インターフェア・バッターアウト”あるいは“インターフェア・ランナーアウト”のコールとゼスチュアをする。</p> <p>塁審は、ボールデッドのシグナルを示したのち、“ボールデッド”とコールし、妨害した走者を右手で指さして“インターフェア・ランナーアウト”のコールとゼスチュアをする。</p>

<p>P85</p> <p>7. 審判員の基本動作</p> <p>インターフェア・バッターアウト</p> <p>コール・シグナル</p> <p>※改訂理由(修正理由)</p> <p>他の項目との整合性を図り、文章を整理し、分かりやすく書き改めた。</p>	<p>インターフェア・バッターアウト</p>	
	<p>○観衆の場合</p> <p>野手が飛球を捕らえようとしたとき、観衆が妨害したかどうかを見極める。</p> <p>打球または送球に対して、観衆が妨害したかどうかを見極める。</p>	<p>○その他の妨害</p> <p>審判員が故意か偶然かを判断して、成り行きにするか、ボールデッドにするかを定める。</p>
	<p>“ボールデッド”とコールし、“インターフェア・バッターアウト”のコールとゼスチュアをする。</p> <p>その後、適切な処置をとる。</p>	

<p>P89</p> <p>7. 審判員の基本動作</p> <p>プレイの中断</p> <p>コール・シグナル</p> <p>※改訂理由(修正理由)</p> <p>文章に整合性を持たせた。</p>	<p>プレイの中断</p> <p>タイム</p> <p>宣告の時機を見極めて前に出る。</p>	
	<p>前に出て、両手を挙げて“タイム”とコールする。</p> <p>球審は左手でマスクを外し、そのままマスクとともに挙げる。</p> <p>他の審判員も直ちに同調する。</p>	

以上が2025年度版「競技者必携」審判の部の改訂・修正点である。

P5

もくじ

「参考」タイプブレーク説明の放送原稿の頁数を追加

※改訂理由(修正理由)

2024年度版「競技者必携」から「参考」として「タイプブレーク説明の放送原稿」を復活させて掲載していたが、「もくじ」に頁数の記載がなかったため、頁数を明記し、追加した。

2024

- 2. 基本的な動き ..... 99
- 3. 留意事項 ..... 99
- 4. 外野への飛球を追いかけた場合の動き ..... 100
- 5. 打球がヒットの場合の動き ..... 108
- 9. 審判員の位置および動き（4人制） ..... 111
  - 1. 責任分担 ..... 111
  - 2. 留意事項 ..... 111
  - 3. 外野飛球の場合の動き ..... 112
  - 4. 内野ゴロの場合の動き ..... 120
  - 5. 打球がゴロで外野に抜けたとき、明らかなヒットのとき、  
または外野審が入った場合の動き ..... 120
  - 6. 塁審の基本的な飛球に対する責任判定区分 ..... 121
- 10. 投手板の踏み方・踏み出し方 ..... 122
- 11. スローピッチ・ソフトボール ..... 124
  - 1. ファストピッチとの主な違い ..... 124
  - 2. スローピッチ・ストライクゾーン ..... 126
  - 3. スローピッチの審判で特に留意すること ..... 127

2025

- 2. 基本的な動き ..... 99
- 3. 留意事項 ..... 99
- 4. 外野への飛球を追いかけた場合の動き ..... 100
- 5. 打球がヒットの場合の動き ..... 108
- 9. 審判員の位置および動き（4人制） ..... 111
  - 1. 責任分担 ..... 111
  - 2. 留意事項 ..... 111
  - 3. 外野飛球の場合の動き ..... 112
  - 4. 内野ゴロの場合の動き ..... 120
  - 5. 打球がゴロで外野に抜けたとき、明らかなヒットのとき、  
または外野審が入った場合の動き ..... 120
  - 6. 塁審の基本的な飛球に対する責任判定区分 ..... 121
- 10. 投手板の踏み方・踏み出し方 ..... 122
- 11. スローピッチ・ソフトボール ..... 124
  - 1. ファストピッチとの主な違い ..... 124
  - 2. スローピッチ・ストライクゾーン ..... 126
  - 3. スローピッチの審判で特に留意すること ..... 127
- 参考 タイプブレーク説明の放送原稿（例） ..... 128

掲載頁数を明記し、追加